議事3
資料3

公立・公的医療機関の具体的対応方針の再検証に係る対応について

■ 「公立・公的医療機関の具体的対応方針の再検証」とは、国が高度急性期・急性期機能を有する公立・公的医療機関等を分析し、国が定めた領域(※1)で「診療実績が特に少ない」または「類似かつ近接している(※2) 」に該当する医療機関に対して、令和2年1月に具体的対応方針の再検証等の要請を行ったものです。

※1 がん、心疾患、脳卒中、救急、小児、周産期等

※2 構想区域内に一定数以上の診療実績を有する医療機関が2つ以上かつ相互の所在地が近接（自動車での移動時間が20分以内）

■ 国の通知においては、対象医療機関が国の分析結果を踏まえて以下の①～③を検討の上、結果を反映した具体的対応方針について地域医療構想調整会議で協議し、合意を得ることとされています。

① 2025 年を見据えた自医療機関の役割
② 分析の対象とした領域ごとの医療機能の方向性
③ 機能別の病床数の変動

■ 香取海匝圏域では以下の3病院が再検証の対象となっています。

・銚子市立病院　（診療実績が特に少ない、類似かつ近接）
・国保多古中央病院（診療実績が特に少ない、類似かつ近接）
・国保匝瑳市民病院（H29病床機能報告未提出）

このたび、各医療機関の再検討を反映した具体的対応方針が、地域の医療提供体制において妥当か、また、真に地域医療構想の実現に沿ったものであるか、御意見を伺います。

【問合わせ先】健康福祉政策課 地域医療構想推進室
電話番号：043-223-2457　メール：chihuku@mz.pref.chiba.lg.jp

再検証の流れ

国から再検証要請

医療機関内部での検討の実施

9病院が該当

県ヒアリング

調整会議での協議

5圏域が該当

国に対する議論状況の報告

検討事項

① 現在の地域における急性期機能や、将来の人口推移とそれに伴う医療需要の変化等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025 年を見据えた自医療機関の役割
② 分析の対象とした領域ごとの医療機能の方向性
③ ①②を踏まえた機能別の病床数の変動

実施期間：令和３年４月８日～２１日

【参考】**対象医療機関**（10病院＋未報告2病院（※2）－急性期廃止3病院（※1）＝9病院）

千葉	独立行政法人国立病院機構千葉東病院 独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院 千葉市立青葉病院 千葉県千葉リハビリテーションセンター（※1）
香取海匝	銚子市立病院 国保多古中央病院 国保匝瑳市民病院（※2）
山武長生夷隅	東陽病院
安房	国保鋸南病院（※2） 南房総市立富山国保病院（※1） 鴨川市立国保病院（※1）
君津	国保直営君津中央病院　大佐和分院

※1 H29病床機能報告後に急性期機能を廃止したため、調整会議での議論は不要
※2 H29病床機能報告が未提出の医療機関

具体的対応方針の再検討結果報告書

病院名	銚子市立病院
国の分析結果	A.診療実績が特に少ない（○）　　B.類似かつ近接（○）
自医療機関における検討内容 ① 現在の地域における急性期機能や、将来の人口推移とそれに伴う医療需要の変化等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025年を見据えた自医療機関の役割	今後も銚子市は過疎化が進み、高齢者の割合が多くなると予想され、高齢者への医療提供が大きな割合を占めるのは変わらないと考えられる。 入院需要が今後も高くなると考えられるので、多くの患者を受け入れるために稼働病床数を増やす方針を継続し、対応できる症例も拡大する。 救急医療については、２次救急を積極的に受け入れ、地域医療の円滑化に取り組んでいる。 令和３年４月より回復期リハビリテーション病棟をオープン。今まで海匝地域には無かった病棟であり、回復期の医療を提供できるようになった。急性期・回復期・慢性期病棟を稼働し、患者の症状や事情に合わせて柔軟な医療の提供ができる環境を整備・維持することで、近隣医療機関が患者を紹介する際に「まずは銚子市立病院へ紹介しよう」と思われるような病院を目指す。
② 分析の対象とした領域ごとの医療機能の方向性（他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能停止等）	令和２年度より手術を本格開始した。がん手術は消化器・乳腺領域を主として実施。化学療法と併せて患者への医療提供を継続し、対応できる症例を増やせるよう検討を行う。 救急医療についても３６５日対応の体制を維持し、対応を継続する。 その他の項目については急性期医療の提供体制は整っていない。

	がん	心血管疾患	脳卒中	救急医療	小児医療	周産期医療	災害医療	研修･派遣機能
H30 年度末				○				
R１年度末				○				
検討後の方針	機能拡大			機能拡大				

③ ①②を踏まえた機能別の病床数の変動	令和３年４月より回復期リハビリテーション病棟を開棟した。（稼働病床数：令和３年４月時点　急性期５３床　回復期１６床　慢性期３８床） 最初は１６床稼働でのスタートであるが、今後増床を行う予定である。 残っている休棟部分についても運用の検討を行い、急性期病棟か回復期病棟のどちらかで運用を検討中。

	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	介護等へ移行
H29 年度報告	209		53		38	118	
R1 年度末	209		53		38	118	
検討後の方針	135		80	40	15		

④ 分析の対象とした領域以外における急性期機能の役割（他の医療機関では担うことのできない高度・先進医療や政策医療、新型コロナウイルス感染症患者の受入等）	令和２年度より帰国者・接触者外来を設置。新型コロナウイルス感染症疑い患者等への診療体制を維持する。 新型コロナウイルス感染症の PCR 検査を千葉科学大学と連携して実施。当日中に検査結果を報告できる体制を整えている。 当院が検体採取を実施し、千葉科学大学が検査を実施している。
⑤ その他	新型コロナワクチンの集団接種を銚子市と連携して実施している。個別接種も開始した。 公立病院として、医師による講座など予防的医療も含めて、地域に必要とされる医療を提供する。

具体的対応方針の再検討結果報告書

<table>
<tr><td>病院名</td><td>国保多古中央病院</td></tr>
<tr><td>国の分析結果</td><td>A. 診療実績が特に少ない（ ○ ）　　B. 類似かつ近接（○）</td></tr>
<tr><td>自医療機関における検討内容
① 現在の地域における急性期機能や、将来の人口推移とそれに伴う医療需要の変化等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025年を見据えた自医療機関の役割</td><td>・香取海匝医療圏では、高度急性期・急性期の医療需要は、2040年にかけて徐々に減少、回復期の医療需要は、2030年にかけてわずかに増加、慢性期の医療需要は減少すると推計されている。一方で、香取海匝医療圏での介護需要については、2030年まで増加し、その後減少に転じるが、2040年時点までは現時点よりも増加するとの見通しがあり、多古町においても、2035年までは、現在よりも高い水準となっている（地域医療情報システムより）。
・香取海匝医療圏の医療構想における機能別の医療供給体制では、2025年に向けて急性期病床が過剰であり、回復期病床が不足している状況である。
・2025年にかけては、引き続き地域需要に応じた一般急性期医療を提供するとともに、回復期・介護・在宅機能を拡充していく。</td></tr>
<tr><td>② 分析の対象とした領域ごとの医療機能の方向性（他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能停止等）</td><td>・がん、心血管疾患、脳卒中の急性期での診療については、受け入れの意向はあるが診療実績は少ない。しかし、高度急性期・急性期を担う他の医療機関との連携により、回復期・維持期を担っている。
・救急搬送において、多古町の救急告示病院は当院のみであり、20分圏内に救急告示の医療機関がないことから、高度急性期への対応は困難であるものの、多古町及び近隣市町村の一次救急・二次救急の役割を担っているものと自認している。救急医療の機能は今後も同様の役割を継続する方針である。
・小児医療について、特定入院料（小児入院医療管理料）の届出をしていないため、実績が０件であるが、小児患者の受け入れは行っている。小児の人口が、2040年にかけて大幅に減少する見込みであり、今後の地域の需要を鑑みて方向性を定める必要はあるが、近隣市町村に小児の受入医療機関がなく、地域の小児医療の役割を担っていることから、小児医療の機能は継続する方針である。
<table>
<tr><td></td><td>がん</td><td>心血管疾患</td><td>脳卒中</td><td>救急医療</td><td>小児医療</td><td>周産期医療</td><td>災害医療</td><td>研修･派遣機能</td></tr>
<tr><td>H30年度末</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>R１年度末</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>検討後の方針</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>③ ①②を踏まえた機能別の病床数の変動</td><td>・当院では、将来の医療・介護需要及び千葉県の地域医療構想に基づき、平成31年１月に一般病床を５床削減、平成31年２月に急性期一般病床15床を地域包括ケア病床に転換、令和２年４月に療養病床56床（全床）を介護医療院に転換した。今後は、更に地域の人口動態等を考慮しながら、急性期病床の削減及び回復期機能の拡充をする方針であり、直近では、令和３年４月に一般病床を６床削減し、急性期一般病床の15床を地域包括ケア病床に転換することを予定している。
<table>
<tr><td></td><td>合計</td><td>高度急性期</td><td>急性期</td><td>回復期</td><td>慢性期</td><td>休棟等</td><td>介護等へ移行</td></tr>
<tr><td>H29年度報告</td><td>166</td><td></td><td>110</td><td></td><td>56</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>R1年度末</td><td>161</td><td></td><td>90</td><td>15</td><td>56</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>検討後の方針</td><td>99
（介護込み155）</td><td></td><td>69</td><td>30</td><td></td><td></td><td>56</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>④ 分析の対象とした領域以外における急性期機能の役割（他の医療機関では担うことのできない高度・先進医療や政策医療、新型コロナウイルス感染症患者の受入等）</td><td>当院は、次のとおり、新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症の流行時に、地域において求められる医療機能の役割を担っている。
・入院患者受入医療機関として、令和２年８月から専用病床８床を確保し、香取海匝医療圏のみならず、他の医療圏からも複数の患者受入の実績がある。
・検査協力機関として、令和２年８月に千葉県と契約を締結し、PCR検体の採取（保健所提出）と抗原検査を実施中。また、香取郡市医師会のPCRセンターの補完機関として小児の検体採取に協力しており、今後、令和３年１月にPCR検査機器を導入し、地域における検査体制を拡充する予定である。
・令和２年10月には千葉県から、疑い患者受入二次救急医療機関の登録、インフルエンザ流行期における発熱外来の指定を受け、診療を実施している。</td></tr>
<tr><td>⑤ その他</td><td>特になし</td></tr>
</table>

具体的対応方針の再検討結果報告書

病院名	国保匝瑳市民病院
国の分析結果	A. 診療実績が特に少ない（　　）　　B. 類似かつ近接（　　）
自医療機関における検討内容 ① 現在の地域における急性期機能や、将来の人口推移とそれに伴う医療需要の変化等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025年を見据えた自医療機関の役割	・新改革プラン策定時に行った推計によると、匝瑳市における将来推計患者数については一貫して減少するが、入院患者数については、高齢化が進展する影響で2025年にピークを迎え、その後も減少に転じるものの少なくとも2030年までは高い水準を維持するものとなっている。 ・令和２年度の入院患者数20,650人と新型コロナウイルスの影響もあり、減少となった。、入院実患者数約1,600人のうち1,300人程度が匝瑳市民となっており、人口３万5,000人の27人に一人が当院に入院しているという状況である。 ・香取海匝医療圏における基幹病院である旭中央病院の業務を補完する医療機関として、入院機能の維持は不可欠である。 ・香取海匝医療圏で不足する回復期に対応する病床の確保についても今後の当院の役割として検討していく。
② 分析の対象とした領域ごとの医療機能の方向性（他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能停止等）	・旭中央病院に先進医療及び高度医療が集中する中において、高度急性期を脱した患者の受け入れを積極的に行うことで、旭中央病院が高度急性期を維持していくための一助となっているものと考えている。 ・今後も、この体制を継続するとともに、さらに医療圏で不足する回復期機能の充実について検討していきたい。 ・旭中央病院との連携や医療機能が類似している近隣の多古中央病院、東陽病院との連携についても検討をしていきたい。

	がん	心血管疾患	脳卒中	救急医療	小児医療	周産期医療	災害医療	研修･派遣機能
H30年度末	診断・治療・緩和ケア	検査・診断	検査・診断	二次救急	－	－	協力	協力型研修
R１年度末	診断・治療・緩和ケア	検査・診断	検査・診断	二次救急	－	－	協力	協力型研修
検討後の方針	診断・治療・緩和ケア	検査・診断	検査・診断	二次救急	－	－	協力	協力型研修

③ ①②を踏まえた機能別の病床数の変動	・香取海匝医療圏で、回復期病床が不足することが想定されているため、２０１８年７月に機能変更を行い、一般病床１４床を地域包括ケア病床に転換している。今後、２０２１年８月に地域包括ケア病床を１５床にする計画である。 ・当院では、２０１９年２月に１１０床から９９床にダウンサイジングを実施している。 ・現在、病院の建替えを検討しているところであり、新病院では更なるダウンサイジングも検討していく。

	合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	介護等へ移行
H29年度報告	119	0	110	0	0	0	0
R1年度末	99	0	85	14	0	0	0
検討後の方針	99	0	84	15	0	0	0

④ 分析の対象とした領域以外における急性期機能の役割（他の医療機関では担うことのできない高度・先進医療や政策医療、新型コロナウイルス感染症患者の受入等）	・旭中央病院に先進医療及び高度医療が集中する中において、その他の医療の受け皿としての役割を果たしている。さらに、今回のコロナ禍においては、帰国者接触者外来及び発熱外来を設置して、疑い患者等の診療に努めているほか、２０２１年１月から入院患者の受け入れも行い、医療圏におけるコロナ対策に、一定の役割を果たしている。
⑤ その他	・当院は香取海匝医療圏で唯一の在宅療養支援病院となっており、医師による往診及び訪問診療も実施している ・訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所を併設し、開業医との医療連携のネットワークを構築することにより、匝瑳市及び近隣市町での在宅看護及び介護の中心的な役割を果たしている。 ・今後もますます重要性を増すであろう、在宅での看護と介護について、医療圏での先進的な役割を果たし、地域をけん引していきたい。